

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	14-094	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Fetal alcohol syndrome among children aged 7-9 years - Arizona, Colorado, and New York, 2010. 米国アリゾナ州、コロラド州、ニューヨーク州 7-9 歳児の胎児性アルコール症候群		
執筆者		
Fox DJ, Pettygrove S, Cunniff C, O'Leary LA, Gilboa SM, Bertrand J, Druschel CM, Breen A, Robinson L, Ortiz L, Frías JL, Rutenber M, Klumb D, Meaney FJ; Centers for Disease Control and Prevention (CDC).		
掲載誌		
MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2015 Jan 30;64(3):54-7.		
キーワード		PMID
胎児性アルコール症候群、有病率、米国		25632951
要 旨		
目的： 胎児性アルコール症候群の有病率（対千人）は、専門家の報告は 6-9 であるが、行政記録等に基づく報告は 0.2-1.5 と乖離している。2010 年の米国アリゾナ州、コロラド州、ニューヨーク州 7-9 歳児の胎児性アルコール症候群の有病率を明らかにする。		
方法： 遺伝医学専門、発達障害専門病院の診療録や、国民医療保障、保健維持機構、家庭裁判所の記録から胎児性アルコール症候群が疑われる症例を探し、2010 年 7-9 歳児の胎児性アルコール症候群の有病率（対千人）（95%信頼区間）を算出した。		
結果： 有病率はアリゾナ州 0.3(0.2-0.3)、コロラド州 0.3(0.2-0.4)、ニューヨーク州 0.8(0.6-1.0) 合計 0.3(0.3-0.4)、人種別は最高がアメリカ原住民 2.0(1.4-2.8)、最低はヒスパニック 0.2(0.1-0.2)であった。性別や年齢による差は認めなかった。		
結論： 2010 年 7-9 歳児童の胎児性アルコール症候群の有病率は三州合計 0.3 であった。専門家の既報告と比較して低い数値である理由は、胎児性アルコール症候群の症状である学習障害等の診断が十分になされていない事、学習障害等の診断の際に妊娠期の飲酒状況が考慮されず、胎児性アルコール症候群と診断されていない可能性等が考えられた。		